

現象から読み取る警察官通報の増減

○中川優馬、萩原嬉胡、日高真紀、上原千枝、
戸高由佳里、西田敏秀、藤崎淳一郎

はじめに

中央保健所における措置業務

2町(国富町、綾町)に加え、宮崎市を所管する警察署からの警察官通報に対応している。

通報件数は、年度ごとに増減を繰り返しており、月毎の通報件数にもばらつきがある。

対象と方法

対象

平成28年4月1日から平成31年3月31日までに警察官から通報があった152件。

方法

月ごとの警察官通報の件数について、措置診察に係る診断書よりICD分類ごとに集計。

その傾向について文献を元に考察を行った。

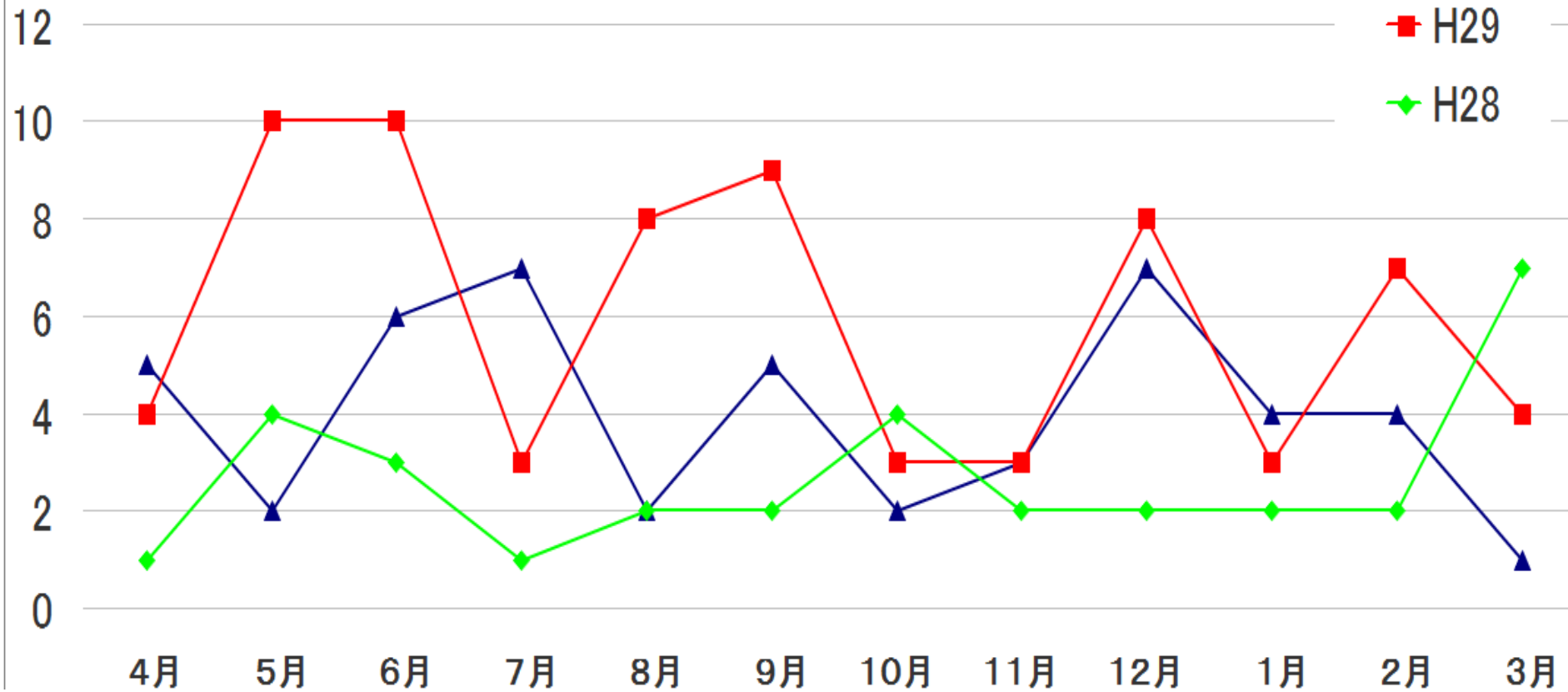
結 果

月ごとの警察官通報の推移

▲ H30

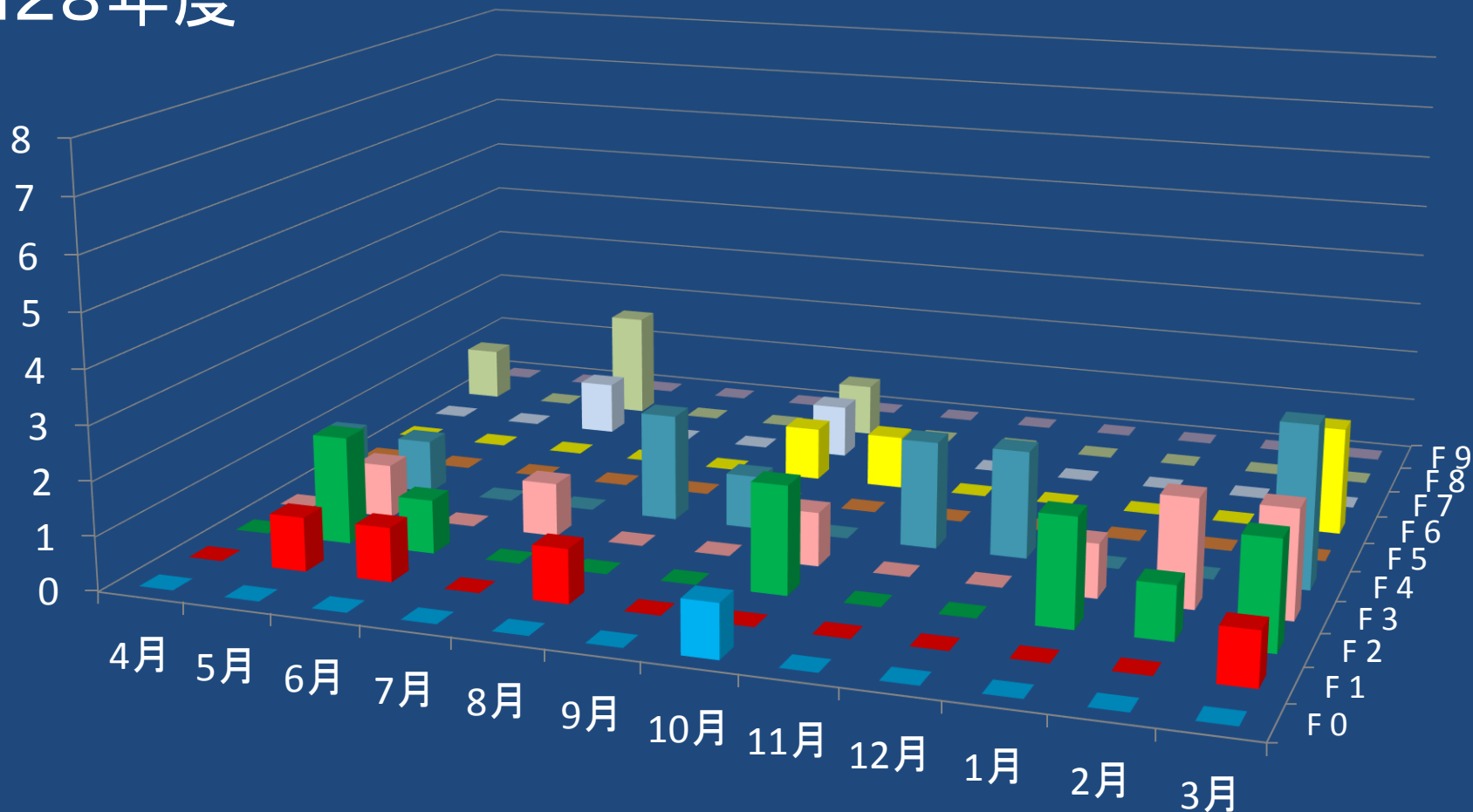
■ H29

◆ H28



平均通報件数(月) H28年度・・・2.7回
H29年度・・・6.0回
H30年度・・・4.0回

H28年度



F0 器質性精神病

F1 精神作用物質による精神および行動の障害

F2 統合失調症、統合失調型障害および行動の障害

F3 気分(感情)障害

F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害

F5 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群

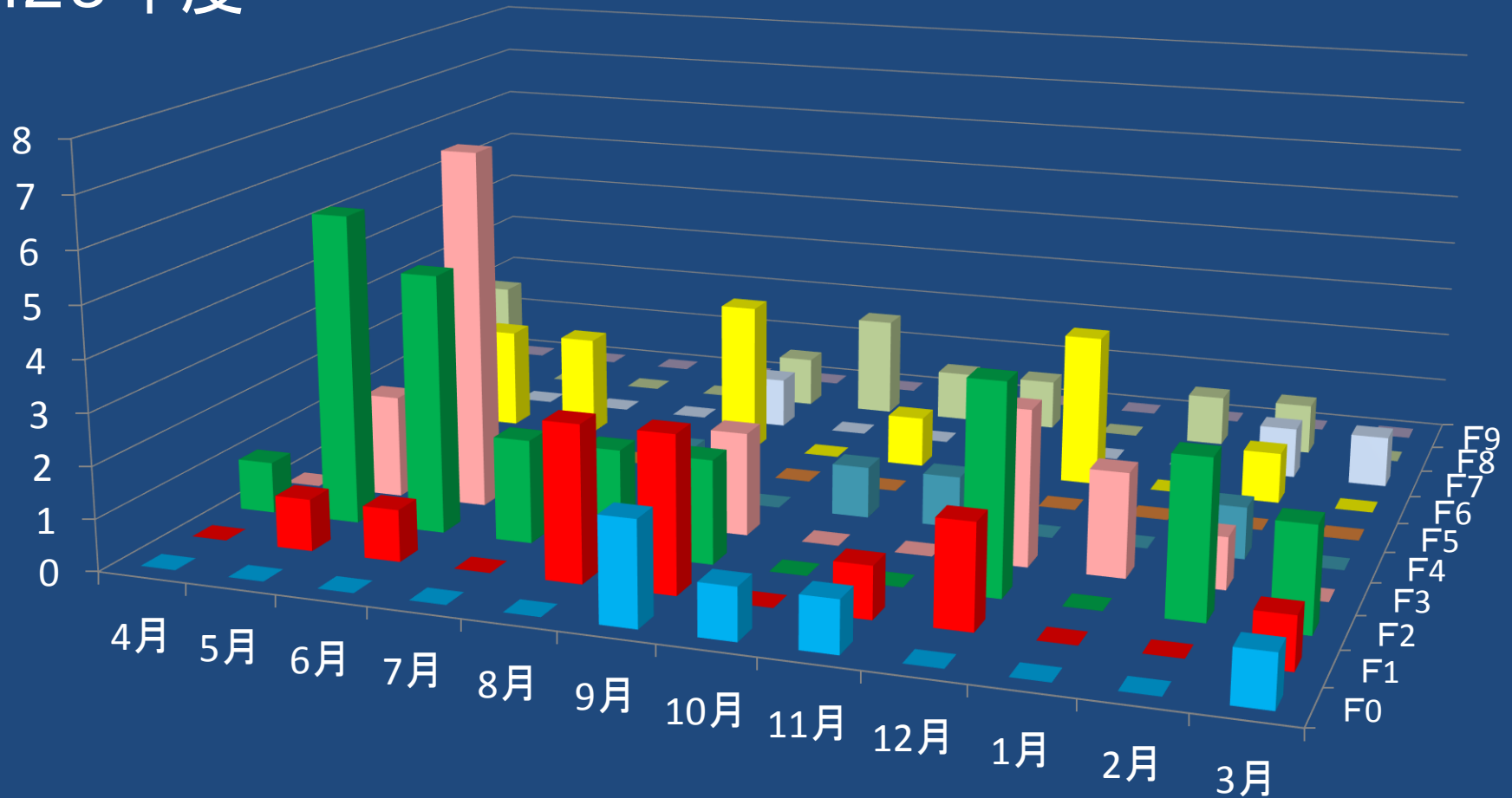
F6 成人のパーソナリティおよび行動の障害

F7 精神遅滞

F8 心理発達の障害

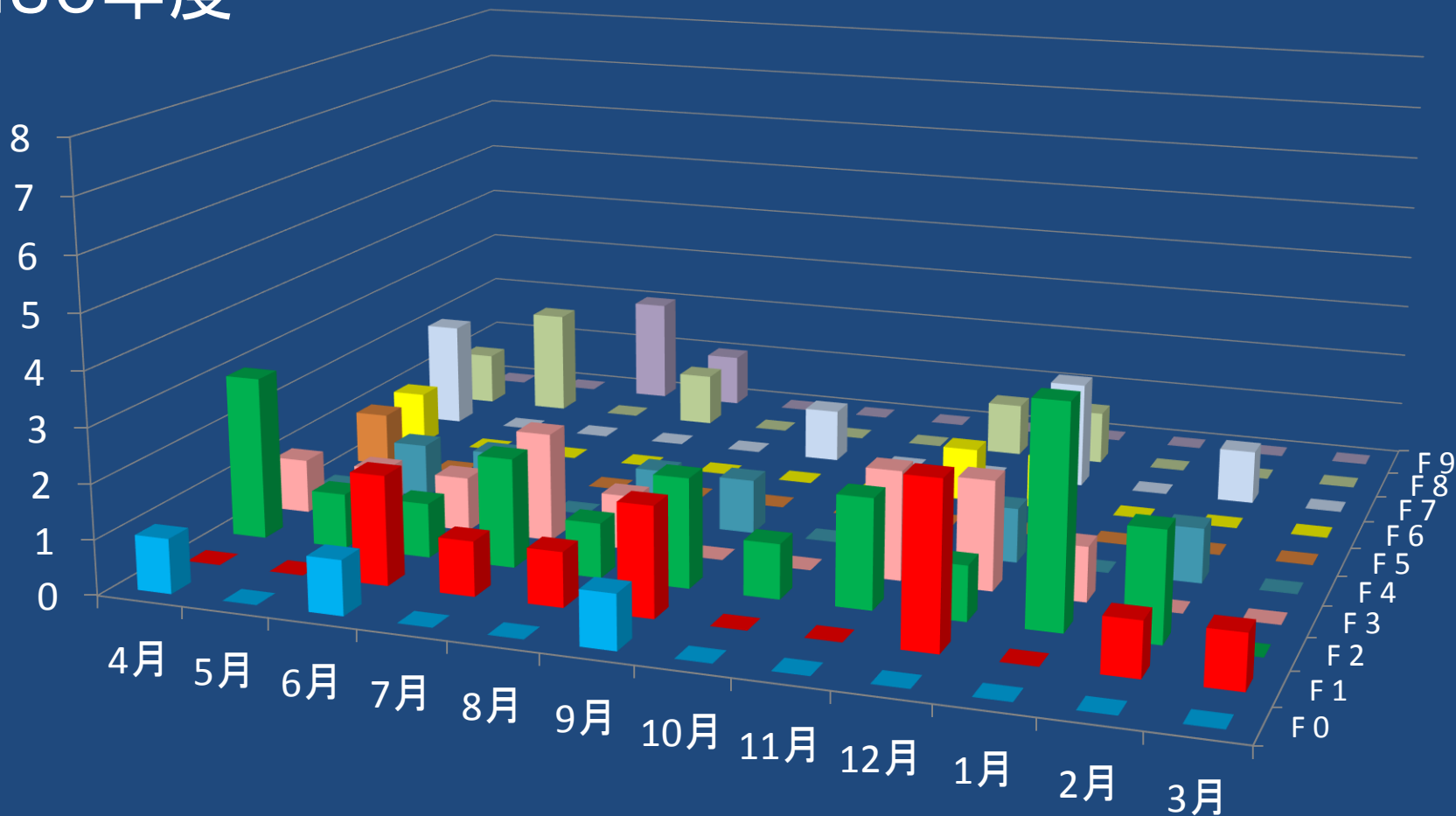
F9 小児期および青年期に通常発生する行動および情緒の障害、特定不能の精神障害

H29年度



- F0 器質性精神病
- F1 精神作用物質による精神および行動の障害
- F2 統合失調症、統合失調型障害および行動の障害
- F3 気分(感情)障害
- F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
- F5 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
- F6 成人のパーソナリティおよび行動の障害
- F7 精神遅滞
- F8 心理発達の障害
- F9 小児期および青年期に通常発生する行動および情緒の障害、特定不能の精神障害

H30年度



- F0 器質性精神病
- F1 精神作用物質による精神および行動の障害
- F2 統合失調症、統合失調型障害および行動の障害
- F3 気分(感情)障害
- F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
- F5 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
- F6 成人のパーソナリティおよび行動の障害
- F7 精神遅滞
- F8 心理発達の障害
- F9 小児期および青年期に通常発生する行動および情緒の障害、特定不能の精神障害

考 察

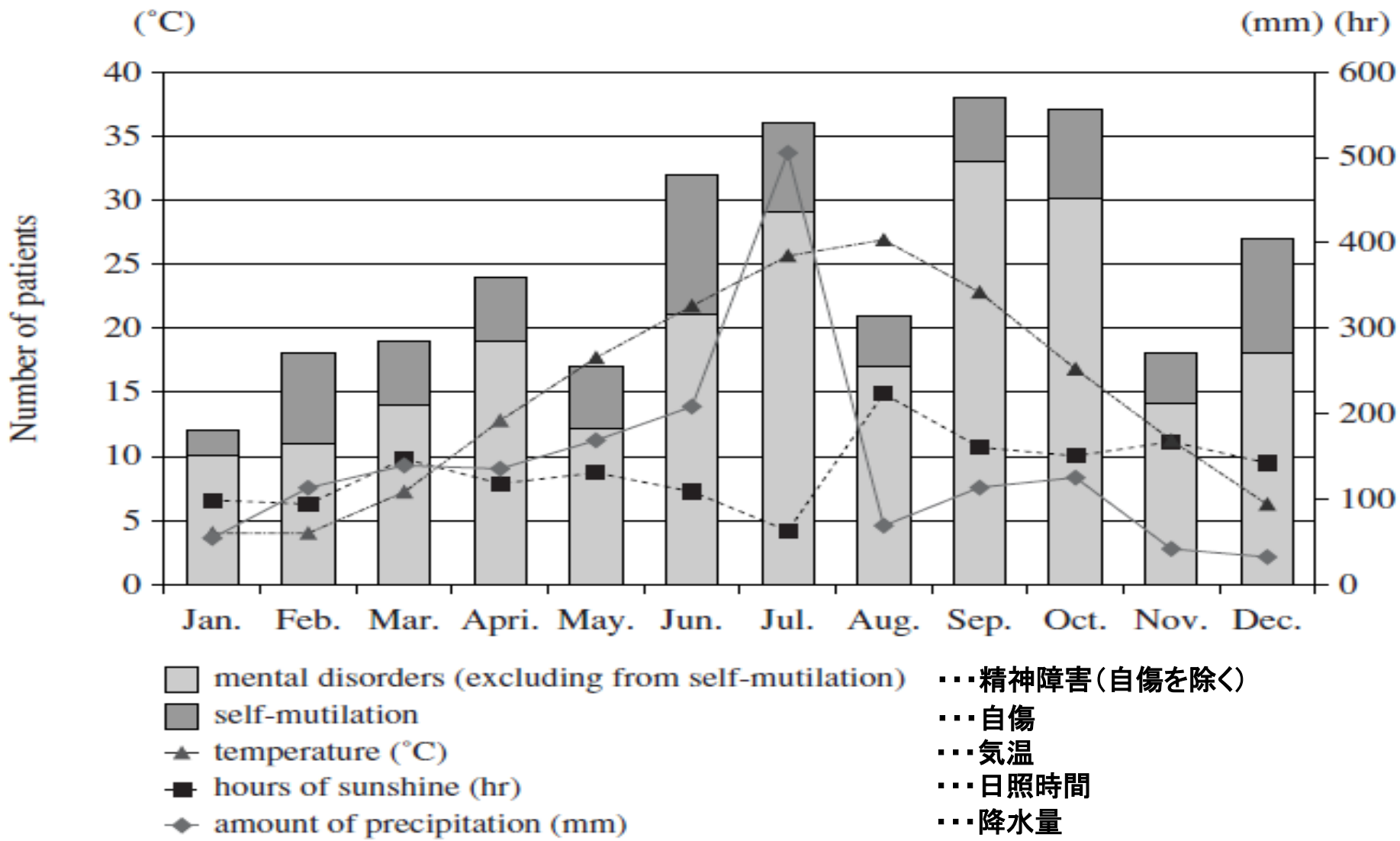


Fig. 4. Relation between the climate and number of patients with mental disorders from September 2005 to August 2006.

The number of patients with psychiatric disorders was correlated neither with the hours of sunlight nor with the amount of precipitation, but showed a significant correlation with the atmospheric temperature.

出典: 救急受診患者における精神疾患患者数の季節性
大槻秀樹、2009 (滋賀医科大学)

警察官通報の季節性

今回の集計からは、季節性に関する傾向は得られなかった。

(救急科を受診した精神疾患患者の増減と警察官通報の傾向は一致しなかった。)

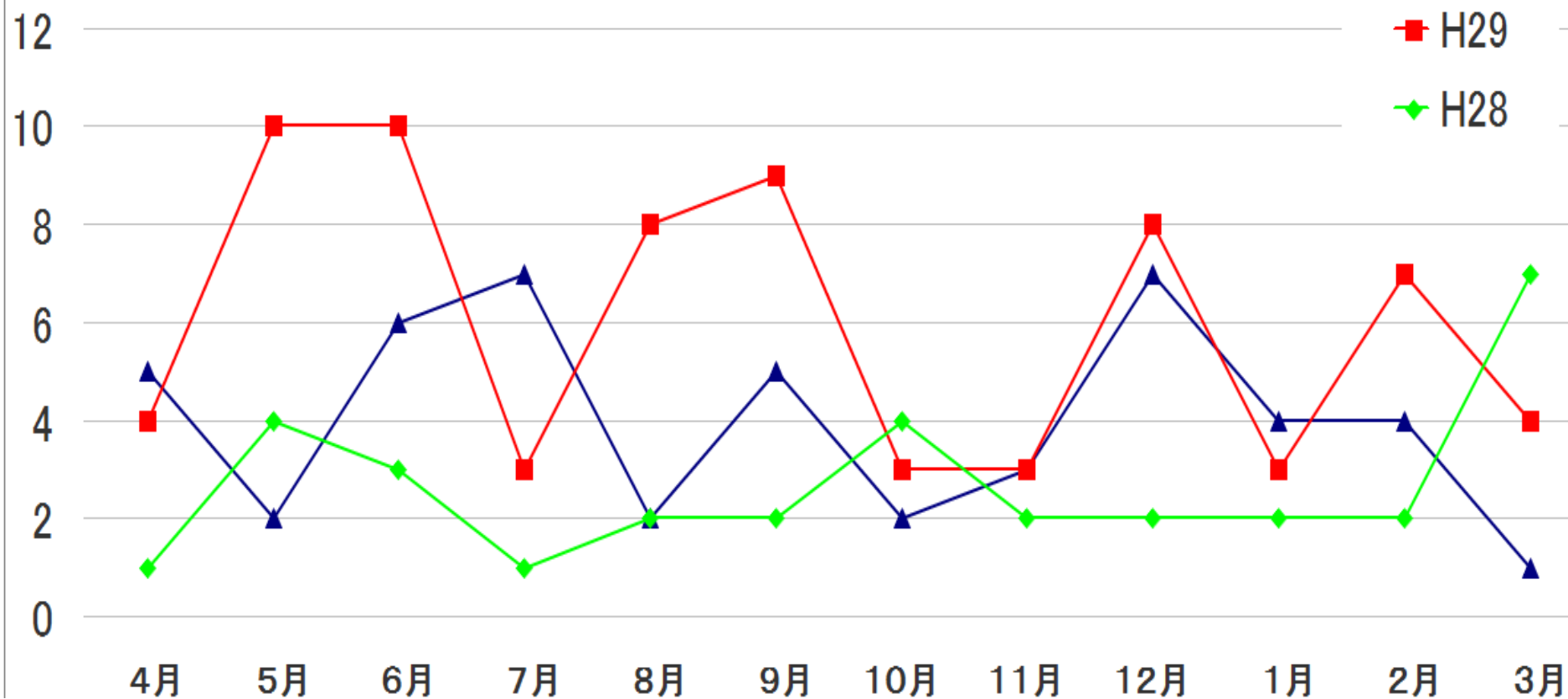
警察官通報と社会的な出来事

月ごとの警察官通報の推移

▲ H30

■ H29

◆ H28



警察官通報における診断名(ICD分類)の内訳

平成29年度	通報数 (実数)	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9
4月	4	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0
5月	10	0	1	6	2	2	0	2	0	0	0
6月	10	0	1	5	7	0	0	2	0	0	0
7月	3	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0
8月	8	0	3	2	0	1	0	3	1	1	0
9月	9	2	3	2	2	0	0	0	0	2	0
10月	3	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0
11月	3	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0
12月	8	0	2	4	3	0	0	3	0	0	0
1月	3	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0
2月	7	0	0	3	1	1	0	1	1	1	0
3月	4	1	1	2	0	0	0	0	1	0	0

警察官通報と社会的な出来事

▲ H30

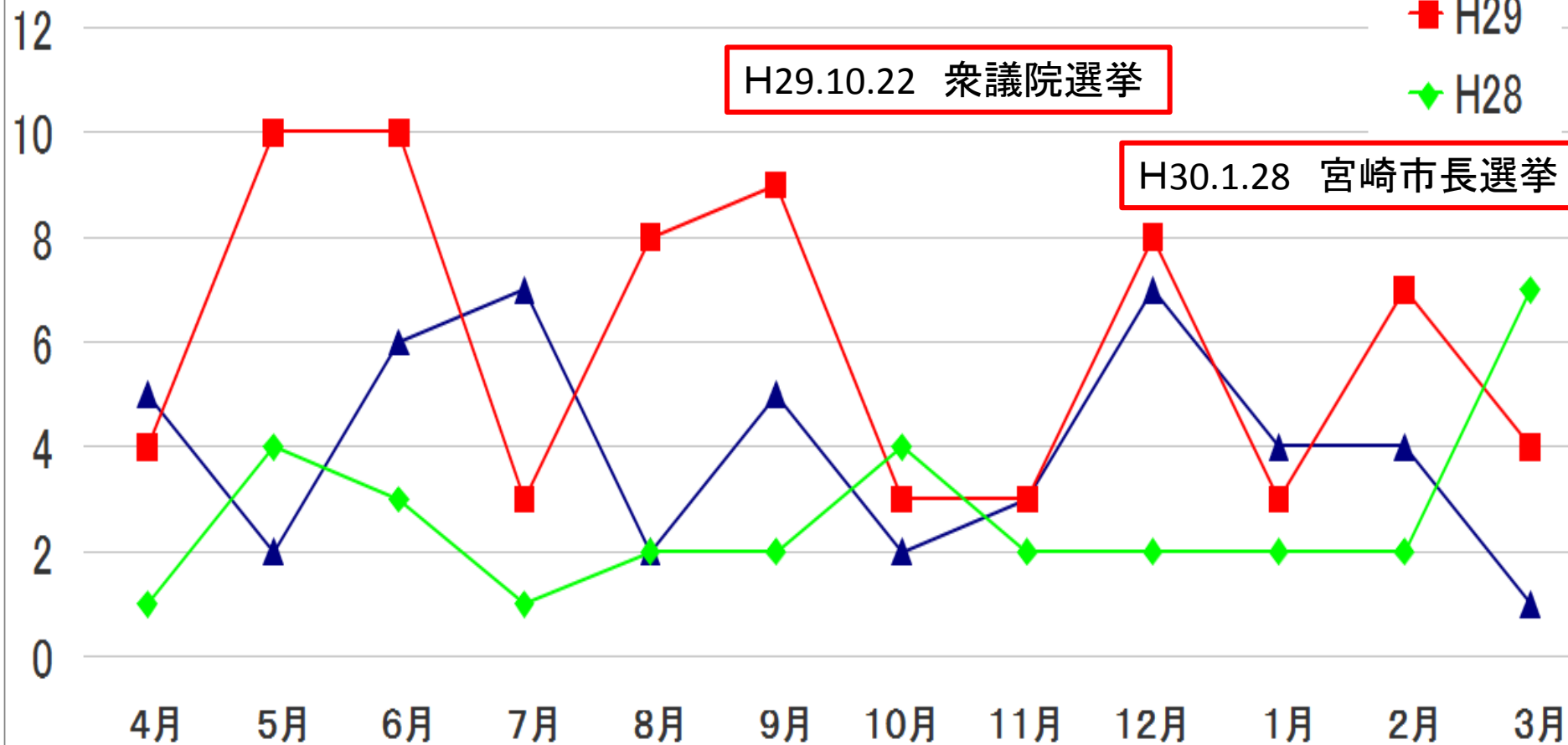
■ H29

◆ H28

H29.10.22 衆議院選挙

H30.1.28 宮崎市長選挙

H28.7.10 参議院選挙

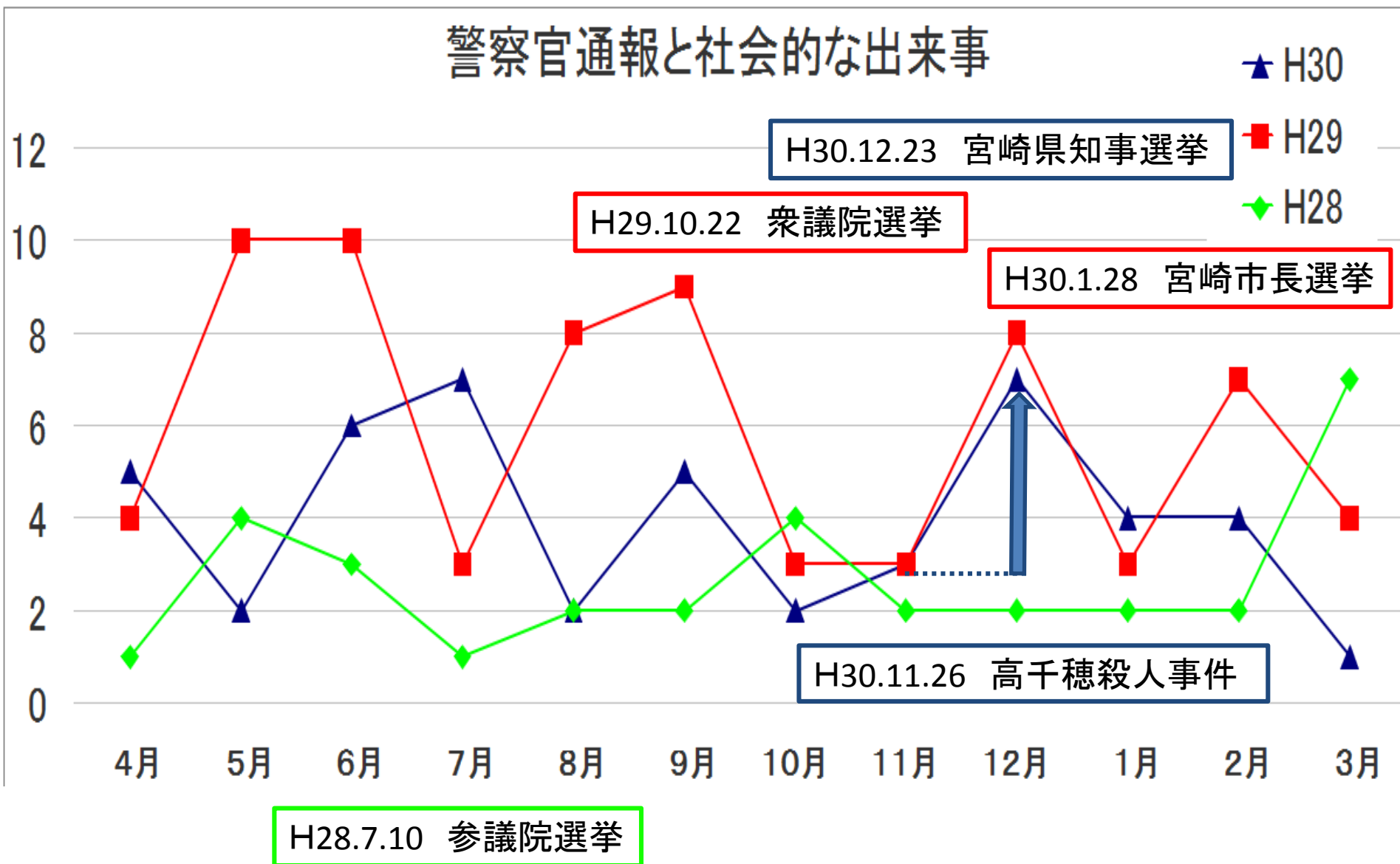


選挙の執行時期と警察官通報の落ち込みは、
重なる傾向がある。



住民の社会的関心や警察官の業務過多が少な
からず警察官通報の増減に影響しているのでは
ないか。

警察官通報と社会的な出来事



住民600名を対象としたアンケート調査

(谷岡ら、住民の精神障害者に対する意識調査、2007)

精神障がい者のイメージ

「こわい」・・・15.8%

「変わっている」・・・19.9% など

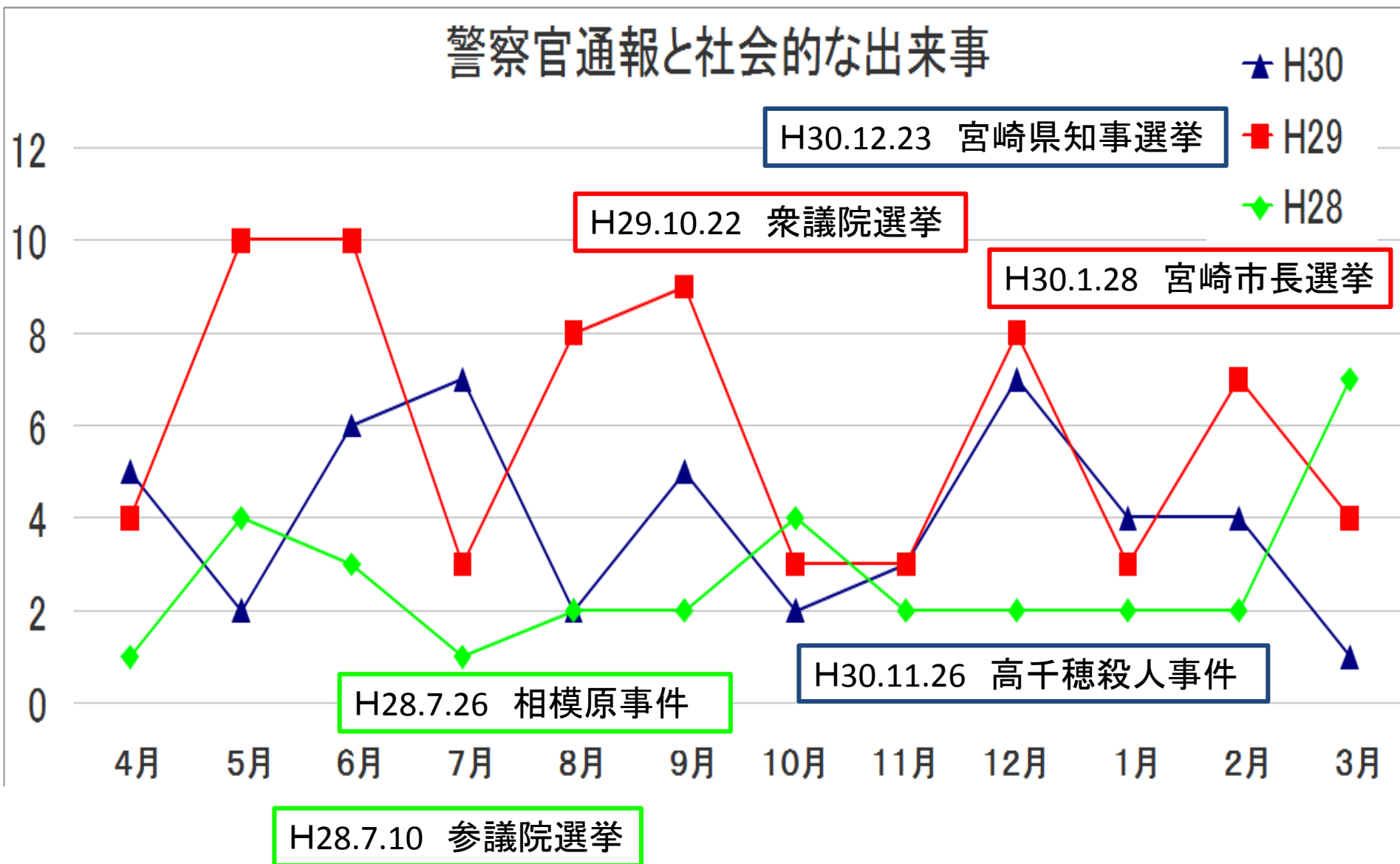
否定的なイメージのみを持つ人が6割を占めていた。

住民600名を対象とした自由記述調査

(板山ら、精神障害者および精神障害福祉に対する地域住民の思いに関する記述的研究、2013)

- ・一見すると理解や予測が難しい様子に、奇異な印象だけでなくその状態を理解できないことによる恐れを感じる。
- ・犯罪事件の断片的な報道により形成される精神障がい者に対する恐れによって、精神障がい者を危険視する先入観が確立される。

警察官通報と社会的な出来事



身近で発生した殺人事件が住民に及ぼす影響
(桐生正幸、身近で発生した殺人事件が住民の不安と
防犯意識に及ぼす効果、2013)

→殺人事件が発生した場所に近い市ほど、防犯
意識が変わったと思う回答が、他の市より多
い。

県外で発生した事件については、警察官通報へ
の影響が少なかった。

まとめ

- ・警察官通報の増減には、社会的な出来事が少なからず影響を及ぼすことが示唆された。
- ・措置入院制度が円滑に運用されるためには、警察を含めた地域の関係者による協議の場において連携を図っていくことが必要。